



敬和学園大学の学生が日本砂防の原点を視察。 ～地域防災担い手育成の一環で立山砂防を見学～

9月14日から2日間、新潟県新発田市に立地する敬和学園大学の学生が、地域防災担い手育成の一環として、明治時代より富山県や国により砂防事業が続けられ、日本砂防の原点である立山カルデラの現地見学を行いました。

14日は、富山市内にて立山砂防事務所の砂防事業サポーターの『立山砂防女性サロンの会』の方々と意見交換を行い、砂防事業サポーターに必要な心得やこれまでの活動についてご教示いただきました。

15日は、前日の意見交換を踏まえ、現地視察として砂防工事専用軌道『トロッコ』に乗り、常願寺川の最上流に位置する立山カルデラに入りました。次第に見えてくる砂防施設のスケール感に圧倒されながらも、同行した事務所職員等の説明を聴き入っていました。

今後も当事務所では、砂防事業サポーターの育成、地域防災活動の発展につながるよう同大学と連携・協力してまいります。



『立山砂防女性サロンの会』との
意見交換の様子



砂防工事専用軌道『トロッコ』に
乗り込む学生



白岩砂防堰堤見学の様子



意見交換後の交流の様子



トロッコを背景に集合写真



カルデラの中心(多枝原平)で説明
に聴き入る学生